

が言ってるんです。恐らく日本の子供さんたちも同じ気持ちだったんじゃないのかな。だから、やっぱり学校というのは、ある時期そこで経験なり学ぶだけじゃなくて、一緒に年代の友達と暮らす、過ごすということも非常に大事なんだなと。改めて学校教育の大切さを分かりましたので、ぜひ、一方ではデジタル化が進んでおりますけども、その辺は苦心されて取り組んでいただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（中村 実君）

滝川議員の質問が終わりました。

関連質問ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

1時25分まで暫時休憩といたします。

〈午後1時17分 休憩〉

〈午後1時25分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、山本 剛議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。〔3番 山本 剛君登壇〕

○3番（山本 剛君）

清政クラブの山本です。

1回目の質問をさせていただきます。

1、新型コロナウイルスによる小中学校への影響について。

新型コロナウイルスにより、昨年度末の3月、そして今年度の4月から5月に小中学校が休校になりました。県下では87時間の遅れとの報道があり、他市等では夏休みの短縮の報道もあります。そこで、現段階における糸魚川市内での影響や今後の課題等について、以下質問いたします。

(1) 学業の遅れについて、現在までの状況はいかがか伺います。

(2) 卒業式、入学式は縮小、運動会などが中止になりました。修学旅行などの行事について、今後どのように考えているか伺います。

(3) 休校や行事が行われなかったことによる、児童生徒の生活態度等に変化はなかったか伺います。

また、ほかにも児童生徒の精神的な状況や影響について伺います。

(4) 今後、第2波を含めた感染症が起こった場合に対して、設備面を含めて様々な準備が必要

と考えます。教育委員会としての対策をどのように考えているか伺います。

次に、大きな2、新型コロナウイルスによる避難所の運営について。

これから梅雨のシーズンになり、また近年、台風の大型化により各所で被害が多発しています。糸魚川市でも昨年10月に能生・早川地区に避難勧告が出されました。今月計画されていた総合防災訓練が中止になりました。3密を避けるための中止と理解しています。

5月29日の安心メールで避難行動についての発信がありました。県では各市町村の担当者を集めた勉強会の報道もありました。その後、全員協議会で避難対策についてということで、参考資料が配られております。

また、広報いといがわ6月号では、避難のすすめが特集されております。

そこで、この糸魚川市として、この状況下での避難所の運営について、以下質問します。

(1) 避難所の3密を避けるための方策をどのように考えているか伺います。

(2) 安心メールで自宅避難についての発信がありました。また、安全な親戚や知人宅への避難についても発信されておりました。

安心メール以外での、市民に周知してもらうための方法について、どのように考えているか伺います。

3、新型コロナウイルス終息後における、都会から地方への移住について。

新型コロナウイルスにより、都会では3人に1人は都会から地方への移住を考えているとの報道もあります。これにより仕事の仕方が大きく変化すると言われております。

そこで、新型コロナウイルス終息を見据えて糸魚川市に移住してもらうため、市として今まで以上の対策が必要と考えます。以下質問します。

(1) 糸魚川市の強みは、恵まれた自然や地域コミュニティなどのほか、新幹線では東京へ2時間強で行くことができます。

しかし、これだけでこの糸魚川を選んでいただけるのでしょうか。移住に向けて新たなインフラなど必要ではと考えています。市として方策を考えているか伺います。

(2) UIターンを推進するために情報発信が重要と思います。何か考えがあるか伺います。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

山本議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、避難所の分散開設を行い、収容人数も3分の1程度に見直し、過密状態にならないよう検討しております。また、避難所以外の受入先確保のため、旅館組合などとも協議を進めております。

2点目につきましては、今年度計画している全地区を対象として行う出前講座などで周知をまいります。

3番目の1点目につきましては、当市の通信環境を活用したリモートワークと、自然を生かした体験メニューを組み合わせた施策の構築を進めているところでありますが、移住希望者と地域を結ぶ人材確保が課題と考えております。

2点目につきましては、地域で活躍する若いUIターンの考え方やライフスタイルを情報発信し、暮らしや当市の魅力に共感していただき、コロナ禍の中でも住民定住につながる流れを創り出してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

山本議員の1番目のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、3月の休校措置では、家庭における学習課題への取組、登校日の設定による補修などの実施により履修いたしました。4月25日から5月6日の休校は、実質4日間の休校措置であり、学習の遅れは最小限に抑えることができたと考えております。

2点目の修学旅行につきましては、昨年度からの延期分も含め、各校で実施時期や方面の見直しなどを検討しております。

また、その他の行事につきましても感染防止対策を行いながら、実施に向け準備を行っております。

3点目につきましては、中止となった行事などの代替対応として、小学校では応援フェスティバルやリレー大会などの行事を行い、中学校でも部活動が再開されたほか、体育祭に向けた準備も始まり、生き生きと活動する姿が見られております。

また、4月以降、小中学校ともに教育相談や心の健康をチェックするアンケートを行うなど、丁寧に児童生徒の様子を見取り、対応しているところであります。

4点目につきましては、オンライン学習の実現に向けた端末やネットワークの整備を進めてまいります。

また、感染予防に必要な消耗品の配備や環境面での改善なども行ってまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

2度目の質問をさせていただきます。

休校中の各学校での対応を改めて伺います。

学校によっては家庭訪問があったと聞きますが、その内容はいかがでしょうか。

児童生徒の生活リズムに乱れはなかったのでしょうか。

休校中の現状は、先ほど伺いました。

休校中、能生小学校ではケーブルテレビの協力を得て、陰山メソッドを行ったと聞いております。その内容をお聞かせください。他の地区でも何か羨ましがられたとのことも聞いております。

また、隣町の富山県の朝日町では、これケーブルテレビなんですか、テレビがあって、90%以上の普及率、これを利用して学業だとかそういうものを使ったというふうに聞いてますけど、その情報もありましたらお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

3点ご質問いただきました。お答えいたします。

まず1点目、休校中の学校の家庭訪問等の対応でございますけれども、3月の休校においては、学習課題を配付した後、それを回収、それと併せて安否確認という形で、距離を保ちながら子供たちの様子を確認するというので、多くの学校が取り入れて行っておりました。二度、三度と3週間あまりの休校期間中に足を運ぶ担任もおつたと聞いております。

また、必ずしも家庭訪問できなくても電話連絡をしたり、あるいは学校のメールを使いまして配信をして連絡したり、安否確認をしたりというふうな取組をしておりました。中には職員が、動画でメッセージを作りまして、これをホームページにアップしまして子供たちに配信すると、激励を送るというふうな学校もあったと聞いております。

そのような形で子供たちの状況を把握してまいりました。

2点目の生活リズムについてでございますけれども、やはり長期間、外出を避けるというふうなことで運動不足、それから、その間、長時間のメディア利用、それから食生活が不規則になってきたりというふうなことで、生活リズムが乱れる傾向というのはあったというふうに確認しております。

ただし、全体としてやはり一貫教育で家庭教育の大事さを伝えてきたこともありまして、家庭の協力を得ながら学校が再開された折には、比較的スムーズに適応できているというふうに各校の訪問、それから聴取などによって確認をいたしております。

最後、ケーブルテレビで陰山メソッドを配信したというふうな質問ですけれども、能生地域の小学校を中心に毎朝、陰山メソッドをやっているわけですがけれども、これを25分ほどの番組に録画しまして、それをケーブルテレビで毎朝8時から9時の間、こちらの間に放映しまして、それに能生地域の小学校を中心に取組ませてきたというふうなことが、私のほうも確認いたしておりますし、取り組んでいたということを確認しております。

また、ユーチューブにアップしてありますけれども、そちらのほうはホームページから市内の子供たちが誰でも視聴できるようになっておりますので、市内のほかの学校の子供たちも利用がなされたというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

朝日町のほうは、分かりますでしょうか、朝日町。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えします。

朝日町の番組につきましては、私のほうでは確認はしてないわけですがけれども、市内の学校ごとに学習のスケジュール、そちらのほうを家庭のほうに紹介しまして、このとおり取り組んでいきたいと思いますというふうな激励のためのものと、生活リズムを定着させるというふうな意味で活用されていたというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

加えて説明させていただきます。

新聞報道でも、朝日町の取組については報道されているところでありまして、生活習慣なども先生が教壇に立つところを映像で映したものを流して、休校期間中の学業の学習支援ですとか生活リズムのキープ、学習リズムを保つことについて効果があったというふうに報道されているのを確認しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。能生小学校でですけど、児童の約6割が、この陰山メソッドを確実に聞いていたという話を聞いてます。また、2割程度が時々というかたまにというか、そんな感じ。全く見ないというのが2割程度だったというふうに聞いております。

また、家庭訪問では、やはり生活習慣の乱れというか、10時ぐらいに行ったときでもパジャマ姿で出てくる子供がいると。やはりそういう部分では影響があったんでないか。とは言いながら、今あったようにある程度のことにはできたというふうに理解しております。

次に、休校終了後の学校運営について伺います。

新型コロナで学校運営に大きな影響を与えてると思います。現在、学校で衛生面での取組は、どのようにしているかお伺いいたします。そして、その作業の負担は、どう考えているかを伺いたいと思います。

もう一つ、いよいよ暑くなってきます。マスク使用をどう考えているか。エアコンの使用などについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

まず1つ目のご質問です。学校での衛生面での取組ですけれども、衛生面の取組には2つございます。

1つは、衛生指導に当たるものです。子供たちに対してマスクの着用の徹底、それから小まめな手洗い・うがい、それからせきエチケット、また、自ら3密を避けること、こういった新しい生活様式に対応した行動様式について、指導していくということです。市のほうからもリーフレットのほうを作っていただきまして、ルビも振っていただいています。これを活用しながら子供たちに指導の徹底を図っているところでございます。

続いての衛生管理のほうです。これは主に職員のほうの取組でありますけれども、学校では、調査によりますと、教室の机、椅子、あるいはトイレ、階段の手すり、ドアノブ、そういったものをチームをつくって、組織的に分担しながら清掃をしているということです。毎日1回あるいは2回、3回とやっているところもあります。

負担についてですけれども、やはり職員の中からは、先が見えないということに対する不安、それから負担感が出てまいります。できるだけ重点化、精選して1日1回、その代わり丁寧に行うというふうな形で、軽減策を考えております。また、次亜塩素酸ナトリウム、こちらのほうが比較的消毒液として使われるわけですけれども、こちらのほうは水で拭き取らなければならないというふうな手間がございます。

したがいまして、どちらかというアルコールを使ったもの、そういったものにすると負担軽減が図れますので、そちらのほうを支給するように取り組んでいるところです。

最後になりますけれども、マスクの着用であります。

こちらのほうも国・県の指針・指導等を受けながら、屋外での活動、あるいは広い空間での体育、密接する場合は除くんですけれども、そちらのほうについてはマスクの緩和を支持しています。

また、登下校、大分暑くなってまいりましたので、距離を保ちながら、あるいは発話、これに気をつけながらマスクを外しても構わないという形で学校に指示を送っているところです。

以上です。

エアコンの利用のほうは、ここ数日の暑さによって各学校で行っていただいています。やはり学習環境ということで考えますと、暑さというのは子供たちにとっては非効率的になります。

ただ、密を防がなければならないというふうなこともありますので、窓を少し開け、風の通り道を作りながら利用していただくと。あるいは定期的に換気を行うということで、ちょっとエネルギー効率はよくないんですけれども、感染症対策という形で、そのような形で取り組ませていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。教育委員会でも、いわゆる教師の負担のことについてありましたけど、中には、例えば地域の方々に応援していただくというようなこともありましたけど、できれば頑張っていたくしかないのかなというふうに思っております。

次に、学業以外の様々な行事が自粛されてると思います。先ほど回答の中にありましたけど、これからの動きについて伺います。

木浦小学校では、模擬的な運動会をやったというふうにも報道されておりました。その内容はどのようなのか。これからの動き、もう少し詳しくお尋ねしたいと思います。

クラブ活動、またいわゆるスポーツや芸能など、その発表会などについても、いま一度詳しくお伝えいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

学校行事は、基本的には感染症対策を講じながら3密を避けるなどの工夫をして実施可能でございます。

ただし、やはり集団として行う、例えば運動会等につきましては、明らかに外来者も参りますし、密接・密集は避けられない行事であります。そういった行事については、中止という形を取っていることでございます。

ただ、行事によっては、実施方法を工夫すれば実施をすることができます。やはり子供たちに目標を持たせたり、生活に変化を与えたりする上では、学校行事はなくてはならない活動であります。そのようなことで、学校ごとに無理のないように感染症対策を講じながら実施していただいております。

なお、木浦小学校の事例がありましたけれども、木浦小学校も今回、地域と合同で開催する運動会について中止をさせていただいております。

ただし、やはり子供たちに目標を持たせる、活躍の場を与えるという意味から、児童会行事として今回実施しております。いろいろな種目を形を変えながら学校らしい取組を行って、子供たちが自己有用感、自己肯定感を高められたというふうに校長から話を聞いています。

そのほか運動会はできないんだけれども、応援パフォーマンス大会だとかリレー大会といったような形で実施している学校も聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。本当に頑張ってるなというふうに感じます。これからもやはりできることをできるだけ多くやっていただければというふうに思っております。

次に、今後の2次感染を含めた感染症の対応についてということで、全国の公立高校では、ICT化が約1割2分程度で、私立に比べると約半分というふうに報道もあります。近隣の妙高では、

全員に配付というふうな報道もありました。糸魚川でも同じ動きになるのではないかというふうに思ってます。

ただ、タブレットを配付したとしたとしても、先ほど滝川議員の中にありましたけど、家庭環境の中のWi-Fi機能であるとかインターネット環境ですか、そこらの差によってはタブレットを配るだけでは駄目かと思うんですけど、その点についてお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

市内には、小中学校合わせて現在2,712名、子供がいるわけです。その子供たちに今国の助成などを使いながら3分の2に当たる1,800台、こちらのほうを配備しようというふうな形で取り組んでおります。併せて、できるだけ早く残りの台数も配備できるように検討しているところであります。

ただ、ネットワークの問題がありますけれども、こちらのほうは現段階では、あるものを、家庭で通信環境があるものについて活用できる、そういう取組を行います。できない子供たちにつきましては、学校で必要なソフトをダウンロードして与えるとか、あるいは滝川議員にもありましたけれども、公民館のネットワーク、Wi-Fiを使いながら学習する。そういったことを今後検討していきたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

インターネットを使うには、通信回線の費用がかなりかかるかと思うんですけど、その点、いわゆる児童生徒に持たせた場合の、そこら辺りは考えがあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

先ほども申しましたけれども、まずは端末を1人1台整備することを中心に進めてまいります。学校のほうでデジタルリテラシーというんでしょうか、リテラシー能力を高めながら、これを家庭に持ち帰られるようにしていきたいと考えています。通信環境のない子供たちについては、先ほど言ったような学習補償を講じるというふうなことで、端末が配備されてから、今後、通信環境を整備していく、通信環境のない子供たちにも何らかの通信環境が得られるような環境整備のための支援を検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）



貧富の差が学力の差になり、また貧困の連鎖につながるというふうなことを言われています。やはりそういうことのないようにタブレットを配付、それから、いわゆるそういう通信環境なんかも含めて、ぜひとも糸魚川でやっていただければというふうに思います。新型コロナの関係で地方創生の臨時交付金の活用事例集の中にもいろんなことがありますので、活用していただいて、やっていただきたいというふうに思います。全般的に糸魚川、夏休みも何とか取れそうだというふうに聞いてますので、大きな被害がなかったかというふうに考えておりますし、これからも頑張っただければというふうに思います。

次に、新型コロナの避難所についてお伺いいたします。

本議会の全員協議会の中で、避難対策についての報告がありました。

また、私のところに昨日、広報いといがわが届いて、避難のすすめということで特集されておりました。その報告などについて伺います。

1、市民の早めの避難判断、避難行動を促すについて。その中に自治会長などと協議とあります。また、ほぼ終了したというふうに聞きました。その内容と感触について伺います。

防災知識を身につけるための出前講座などを全地域で実施してなっていますが、その計画はどうか。地域によっては、人口の大小があるかと思われます。そのことについても考慮しているか伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

今、各地区の区長さん、あるいは支館長さんに対して意見交換をしまりました。6月に入ってから昨日までに全33地区のうち、32か所終わらして、あと残す1か所ということになっておるんですが、その中では、今ほど議員さん言われたように住民の早めの避難をしていただくために危険な状況になったときには迷わず避難するんだよとか、避難所に逃げることだけが避難ではなくて、親戚の家、知人の家、あるいは浸水深が浅いような場合だと2階への避難、垂直避難、こういう方法もあるんですよということなどをお話ししました。そして、避難所においては、避難所をやっぱりそういうことで分散で避難されることによって、避難所1か所にみんな集まって密になることは、やっぱりそれも避けなければなりませんねというようなお話を代表の方とさせていただいたところでございます。

そういった中で、各地域の区長さんからは、やはり地域の自主防災活動は大事なんだよねというところと、避難時、避難になった場合に地域の役員さんとかにどのようにそれぞれの個人の方が連絡するか、そこがちょっと課題だよねという話。それから、地域内にあるリスク、例えば崖崩れのおそれがあるんだよねとか、川に近いから水害が心配だよねという、そういう地域のリスクとしては、理解をされてるという地区が非常に多かった。そこはよかったですけど、ただ、地域の中ではやっぱりそういう意識が大分薄れてきてるよねというところも地区の代表さんのほうでは意識をされておられました。

そういったところが今回一回りして、全地区にお話しさせてもらって、今全体の現状をつかんだ

というところでございます。

また、防災行政無線等もやっぱり大雨のときは聞こえにくいよねとか、そういった話も伺っておりますので、そういったところにも対策をしていかなければならないなというふうに思っております。

現在、この話を、今度は地区の代表者さんだけでなく、各地区のもっと小さい単位で出前講座という形で住民の皆さんお一人お一人にこの話を一緒になってして、自分の地域はどうなんだ。自分はどういう逃げ方をすればいいんだ。そういう話を出前講座としてやっていきたい。

ただ、今現在、ちょっとまだ住民の皆さんを集める状態ではないものですから、7月以降、条件が整えば、順次、全地域へ回って進めていきたい、こういうふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

糸魚川大火の後に、須沢地区は900世帯ぐらいあるんですけど、大火の、いわゆるビデオ、そういうのを見せるために集まったんですけど、正直な話、二、三十人、30人までいなかったかな。やはり大きなところになりますと、地区の役員だけというような感じになっちゃうんですね。そこから辺りも考慮して、できるだけ小さな集まりにさせていただいて、そんな出前講座をやっていただけるように努力していただきたいというふうに思います。

避難所の密集対策についてですけど、私は避難所に行くことが避難だと思われてる市民が多いよう。もっと言うと国民がそんな感じだなというふうに思ってます。

実は今日、来る前にワイドショーをぱっとつけましたら、地震も津波も水害も全部同じ避難というふうに考えてる国民が多いというふうなことも言うておりました。まさにそうだろうと思うんですね。例えば水害だと、この清崎だとかここら辺りは、あまり大きな心配ない。でも川のそばだとかというのはあるかと思えます。地震だと全部だと思えます。だから、そこら辺りも区分けしてやっていかなきゃいけないんじゃないかと思えます。この新型コロナで、いま一度そういう災害だとかそういうものに対する見直す機会になるのではないかというふうに考えております。防災、そして避難の原則は、自助、共助、公助です。公助が、あまりにも大きくなり過ぎてもいかなものかと思えます。

幸いに、この糸魚川市では市内に親戚や知人が多く、火災の際も避難所がすぐに閉鎖することができました。これは避難所に行くことが拡張し過ぎた感じもあると思ってます。避難所は絶対に必要だというふうに思ってます。地震や津波とは、水害が崖崩れなどの避難については、いま一度見直す機会になればというふうに考えます。

先ほどの滝川議員の中で避難所の、いわゆる市の職員の負担の話がありました。私もまさにそうだろうと思えます。今回の出された避難所の対策についても6平米ぐらいにしようとかいろいろなことあるんですけど、大きくなればなるほど市の職員の負担が多いと思えます。そこら辺りも考えて、できるだけ身内の親戚だとか知人のある方は、そういうところに避難というふうに向けていかなきゃいけないんじゃないかと思えます。その点について改めて質問したいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

おっしゃるとおり、やはり今回通常の避難にプラス感染症のことを考えますと、受付で人を張りつけなければならない。あるいは症状がある人とない人を分けなければならない。こういったところで通常の避難所対策よりも人間が大変多くかかるというふうに見込んでおります。今現在、これまでは1避難所3人ぐらい職員を派遣しておりました。3人では駄目で六、七人は必要になってくるんだろうなというふうに思っております。そうしたときにやはり全ての市の職員が、全ての避難所に張りつけられるかという、大変に厳しい状態になってくるのが推測されます。

そういった中で、先ほどおっしゃっていただいたような親戚、知人宅への避難、これも立派な避難ですよ。あるいは避難所の中の、体育館のような避難所に来た場合であったも、地域の皆さん、避難してきた皆さんで地域の自主防災組織、これが避難所の協力をさせていただく。そういったところも含めて、出前講座等をやる中で地域の皆さんと話をし、みんなでやっていくんだというところを確認をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

先ほどの答弁の中に避難先、例えば親戚に行ったときに、いわゆる区というか地域の役員だとかそういう方に連絡の方法が、やはり問題があるというふうに言ってますけど、その点について、やはり何か新しい方法を考えてることがあれば、ご答弁いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

お答えいたします。

なかなか大事なことなんです、やはりその地域、地域、あるいは地域の付き合いによって、やり方がいろいろあるというふうに思っておりまして、そういった点もやっぱり地域の皆さんと話し合っ、うちの地域ではこういうのがいいよねというところを見つけていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

前回の私の一般質問でも今村新田地区で、いわゆる班単位でやろうというふうな話をさせていた

いただきました。現在、今コロナの関係で、いつやるかというふうには決めてないんですけど、やはりその中で自分たちの避難を誰に連絡するのかということも重点を置いて、話し合うような機会にしたいと思います。ぜひともできれば参考にさせていただけるというふうに思っています。

次に、3番目のコロナの終息後に糸魚川に来ていただくための方策ということでお願いいたします。

この新型コロナによって働き方が大きく変わるというふうに思っていますし、報道もされています。

先日、私、デンカの青海工場に出向いて、デンカの総務課長といろいろなお話をさせていただきました。

本社では、実質3割程度の人だけしか出勤しておりません。残りの人数は、テレワークで仕事をするとのことです。青海工場でもデリバリーとあって、製品の受注から製造への発注だとか、そういう方はこの青海工場でもテレワークを行っているということでもあります。

事務所では、人と人の距離を確保するために旧事務所を使用したり、別の会議室を使用したりと対策を行われておりました。会議は、ほぼオンライン会議ということでもあります。現に、イノベーションハブのに入ったホール、私が行ったときに2名ほどが、そこでオンライン会議をやっておりました。イヤホンをつけてテレビでやっておりました。話によると、最初は戸惑いもありましたけど、ほぼ問題がないというふうに聞いてます。現在、須沢の清和寮というか寮を造ってるんですけど、その週に1回の、いわゆる打合せも全部オンラインでやってるそうでもあります。オンライン会議では、当初は言われたとおり戸惑いもありましたけど、大きな問題はありませんでした。イノベーションハブで、脱ペーパー化は進みまして、当初かなりやはり戸惑ったという話を聞いております。しかし、それをやることによって、今回のコロナウイルスでやはりいい訓練になって、移行がスムーズに行ったというふうに考えてることも聞きました。

工場運営に欠かせない人、これ家族を含めて感染対策を行ってる。例えば部長さんクラスになりますと、奥様もあまりそういうところに出向くなというふうなことも指示されておるようです。

デンカは本社のほうでも含めて、首都直下型地震に備えてということですが、東京が被災した場合、この青海工場のイノベーションハブに本社機能を移すということも言っておりました。やはりコロナウイルスに対してかなり気を配ってるし、いろんな防災について考えているようでもあります。

営業の仕方も、昔はというか直接会って会談しなくても、ほぼインターネットでできるようになってきた。それによって、例えば青海工場の、工場で働く者は別としまして、物を作るとかそういうパソコンでできるようなものは、極端な話、北海道のものが青海工場に採用されるということも考えられるんじゃないかというような話もしておりました。営業の仕方もかなり変わってきた。そういう面では、必ずしも都会に本社機能を持つこともないのではないのか。それぐらいの大きな仕事のやり方に変化が出てくるんだと思います。

こんな時代で糸魚川に、逆に言うと大手の本社機能をこの糸魚川に移すことも、もしかしたら可能かもしれません。市長、いかがでしょうか。そんな動きもしてみてもいいんじゃないかというふうに思いますけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、議員からデンカさんの話をお伺いいたしました。確かに今回のコロナ禍というのは、特に働き方の部分とか、やっぱり集中するときの危険性、いろんな意味で課題というのは全国民、全世界と言ってもいいかもしれません。やっぱり共有できたのじゃないかなというふうに思っております。

ただ、今状況は、まだ収束には至っておりませんので、なかなか早急な動きというのは、いろいろな地方と首都圏の動きもありますので、難しい部分もあると思うんですけども、こういったピンチをやっぱりチャンスに変えていくという取組は、当然必要だと思います。そういった意味で、全員協議会でもちょっとお話をさせていただきましたけど、何かやっぱり変化を求めていかなければいけない地点に来てるんだというふうに思っております。

したがって、これからも特に本社機能を地方に分散するという動きは模索されてるという傾向になるんだろうなというふうに思いますし、ただ今度、受け止める地方の側としてもやっぱりいろんな課題がありますので、そこら辺の部分をクリアしながら進めていかなきゃならないというふうに思っております。今回のコロナ禍、今の状況というのは、やっぱりいろいろ皆さんに働き方を含めた考えさせられるところではないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

コールセンターみたいな、いわゆるサテライトオフィスというんですか、例えば都会ですと本社になり、会社に行くのにやはり密な通勤がありますけど、幸いなことにこの糸魚川、あまり密な、ほとんど車だったり徒歩であったり自転車であったり、そういう面では、このサテライトオフィスのようなものがやっぱりもしできたら、そこに入ってくるのが、糸魚川に移っていただける方がいるんじゃないかというふうにも思ってます。その点も含めて、やはりそれなりきの糸魚川も対応が必要ではないか。そうすることによって、糸魚川に来ていただいて、糸魚川の人口も少し増えるということに期待できるかと思うんですけど、改めて、その件についてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

サテライトオフィスだと思うんですけども、やっぱり全てがテレワークに対応できる業種なのかというところも考えなきゃいけないと思うんですね。いろいろ私たちも見ていきますと、IT関係ですとか金融関係、情報関係、やっぱりこういったテレワークでできる業種というのも多分あるんだろうなというふうに思います。全ての業種ができれば、それは一番ベストなのかもしれませんが、まず、できる範囲の部分というのは、あるのは分かっておりますので、そういったところで小さい取組かもしれませんが、そういった誘致等含めた作業ができる環境、通信も含めてなんですけども、環境の整備、ただそれだけでは駄目ですので、全国の競走になってきます。やっぱり糸魚川らしさの体験ができる、何かそういったコンテンツも含めて。あと地元の企業さんとの、

例えば交流も含めて、より地元もやっぱりよくなるような、そういったお互いにウィン・ウィンになるような、そういったところで進めていくというのが大事なのかなというふうに思っております。いずれにしても、やっぱりいろんな業種を研究しながら可能性は調査しなきゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

新型コロナで国もいろんな弱点が見えてきました。コンピューター化と言いながらダウンだとか、例えばマイナンバーなんかも、いわゆる今例えば通帳と一緒にしようとかって、そういうふうな動きもありますけど、やはり国の弱さがかなり見えてきた部分があると思います。糸魚川でもそういうところがあるんじゃないかと思えます。この弱点を苦役と捉えて、やっぱりやっていかなきゃいけないんじゃないかと。私は、これからの情報を支配する者が、やっぱり勝者になる時代ではないかというふうに思っております。

能生町、先ほど出ましたけど、朝日町のケーブルテレビとかそういうふうなものも機能したと聞いてます。私は、市の広報は、相変わらずと言うと語弊があるかもしれませんが、広報紙、安心メール、防災無線の放送、あと市のホームページで、そういうふうに言われてます。市の広報紙も中身を見る人は、どれぐらいだ、2割ぐらいいるのかなというふうに言われています。ホームページも自らが開かなければ見ることはできません。

私は古いのかもしれませんが、テレビをつけながら真剣に見るのはどうでしょうか、2割程度。本当に例えばドラマ見るとか何とか、あとは何げなくつけてることがあります。その中で、やはりぱっと、これはという思いがあるからなんです。そういう面では、やはり私は今でもテレビがやはり情報源であるのは、間違いないというふうに思ってます。

糸魚川市では、前に能生のようなケーブルテレビの話があったかと思うんですけど、今後、考え直すというようなことは考えておりませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

CATVの話については、合併後何年間か議論を経て、糸魚川市では導入しないというふうに決めた経緯があるかというふうに思っております。ケーブルテレビでなくても、今、光通信が全市内のほうに張り巡らされてる状況、また、今後5Gというような大容量の無線通信が出てきた状況等々を踏まえて、何が今後、糸魚川市で一番またこの地域にとってふさわしい情報ツールなり、広報ツールになるかという面をまた検討しながら、どういうふうな広報を今後できるか考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

いろいろありがとうございます。

最後に、市長、今の議論を通じて何か意見がありましたらお伺いしたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

新型コロナウイルス感染症が発症いたしまして、我々やはりいろいろ今までがよかったもの、また、この新たな見直しというものもあったり、いろいろ気づくところが数多くあったのではないかな。また、そんなことを考えながら、まだまだ第2、第3波の対応もしなくちゃいけないわけですが、これからやはり糸魚川の将来であったり、また新潟、日本、世界のそういったところにどういった流れが出てくるのか、そういうのをやはり見据えながら対応していかなくてはいけないという、この感染症の中で感じたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山本議員。

○3番（山本 剛君）

ありがとうございます。

最後に、私、本当にデンカに行って、わずかの時間でしたけど、かなり今後のいわゆる在り方が勉強になったと思います。市の職員も、できれば行って、そういうことを情報を得ていただければというふうに思います。

これで、私の質問を終わります。

○議長（中村 実君）

山本議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

関連質問なしと認めます。

2時30分まで暫時休憩といたします。

〈午後2時17分 休憩〉

〈午後2時30分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、吉川慶一議員。